

# 地域のたから東西線編

## 「歴史を重ねた市民いつかの場」 沿線ぶらり散歩



仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道

第10回  
大町西公園駅

### 西公園

駅の名前となっている西公園は、明治八（一八七五）年に作られた都市公園です。仙台城下の北にあった神明社（現在の桜ヶ岡大神宮）を移し、その周辺の約五五〇〇坪が公園となり、当初は「桜ヶ岡公園」と呼ばれました。

その後、市街地の東側にある榴ヶ岡も都市公園として整備されると、榴ヶ岡公園は「東公園」、桜ヶ岡公園は「西公園」と呼ばれるようになります。とくに西公園は花見の名所となるとともに、しばしば博覧会の会場としても使われ、市民に親しまれる場所となっていました。

さらに明治一八（一八八六）年、公園の南端に挹翠館という料亭が建てられました。挹翠館は仙台随一の社交場となり、さまざま



片平丁小学校付近。道路沿いの石垣や豊かな緑が大名小路の様子を偲ばせる

な宴会や宴会、時には演説会場や劇場としても用いられました。後に挹翠館は仙台市が買収し、隣に新設された洋館と共に

に仙台市の公会堂（市民会館の前身）として用いられ、空襲で焼失するまで市の代表的な公共施設として多くの人に親しまれたのです。

第二次世界大戦後、西公園は北に大きく拡張され、公会堂はその北端（現在の仙台市民会館の場所）に移転。公園内には図書館、天文台といった文教施設、野球場が設けられ、東北本線を通った蒸気機関車の保存の場ともなりました。公園内ではさまざまなイベントが行われ、なかでも、恒例となった植木市には多くの市民が訪れ、「杜の都」仙台の風物詩のひとつとなったのです。

### 大名小路

西公園（桜ヶ岡公園）が作られた場所は、もともとは仙台藩重臣の屋敷が並んでいた場所でした。現在は西公園の東側に道路が続いていますが、もともとは広瀬川に面した崖際を沿うように道が作られ、その東側に多くの重臣屋敷が並んでいたのです。

現在「片平丁」は裁判所から東北大学片平キャンパス付近を指しますが、江戸時代は西公園付近も「片平丁」と呼ばれていました。

時代による変化もありますが、江戸時代の終わりころだと、現在の西公園には、北から、中島氏、涌谷伊達氏、柴田氏、亘理伊達氏、大内氏、古内氏の屋敷が並んでい



ました。このうち、中島・柴田・大内・古内の各氏は藩の家老（奉行）を輩出する家柄で石高は3千石から5千石でしたが、涌谷伊達氏と亘理伊達氏は仙台藩重臣でも最も石高が多く、2万石を超えていました。

片平丁をさらに南に進むと、茂庭氏や石川氏、岩出山伊達氏など、やはり1万石を超す重臣の屋敷が並ぶことから、片平丁には「大名小路」の別称も付けられました。

こうした重臣の屋敷は1千坪以上の敷地を持ち、屋敷内には豪壮な建物だけでなく、大きな樹木も育ち、「杜の都」の原風景を作っていました。

この大名小路は、次第に仙台の名所として知られるようになり、仙台城下を訪れた旅人が、その見事な風景を幾つもの紀行文に書き残しています。

明治維新の変革により、大名小路の屋敷の多くは姿を消しましたが、裁判所付近では屋敷を区画する石垣や多くの木々が、かつての大名小路の面影を今に伝えているのです。

Musashi



特別展

## 雪舟と宮本武蔵と水墨画

—岡山県立美術館・珠玉の名品—

10月30日(日)まで 好評開催中!

【特別展観覧料】 一般:1,100円、高校・大学生:600円、小・中学生:300円

※10名以上の団体は100円引き。

※その他各種割引があります。詳しくはお問い合わせください。

主催：仙台市博物館 特別協力：岡山県立美術館 共催：河北新報社、NHK仙台放送局  
後援：毎日新聞仙台支局、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、日本経済新聞社仙台支局、仙台リビング新聞社、TBC東北放送、仙台放送、ミヤギテレビ、KHB東北放送、エフエム仙台、ラジオ3FM76.2

■資料写真：[左]遊鴨園 宮本武蔵筆 鳥丸光広賛、[右]重要文化財 山水図（倣玉瀾）雪舟筆 ※いずれも岡山県立美術館蔵

Sesshu



仙台市博物館  
SENDAI CITY MUSEUM

開館時間：午前9時～午後4時45分（最終入館午後4時15分）●10月の休館日：毎週月曜日（10/10は開館）

TEL:022-225-3074

〒980-0862仙台市青葉区川内26番地（仙台城三の丸跡）

▶HP <http://www.city.sendai.jp/hakubutsu-shomu/hakubutsukan/> ▶Twitter @sendai\_shihaku